

全ての土台は自己肯定感



「自分はダメな人間だと思いますか？」の質問に「そう思う」と答えた中学生は、中国が11.1%、アメリカが14.2%、日本は56%でした。国民性や文化の違いもありますが、日本の子どもの自己肯定感の低さは深刻です。

相手のために良かれと思って叱っていても、それが子どもの自己肯定感を下げるのであれば、やめるべきだし、相手の自己肯定感を高めるような注意の仕方、というものもあります。

あるお母さんが言っていました。

「子どもが歯磨きできたことを、よくできたねってほめたら、次の日も自分からやっていたんです。びっくりするくらい素直でした。今までは、怒ってばかりいたので、子どもも機嫌が悪くて、やる気も出さないし、素直じゃないから、よけい叱ってました。」

「ほめる」とは子どもを評価することではありません。

子どもの頑張り・成長を見つけて、その喜びを伝えていくことです。

「叱る」とは、子どもに腹を立てることではありません。

子どもが、自分も他人も大切にできるように、1つずつ教えていくことです。

ほめ方・叱り方は、子育てに限りません。

夫婦でも、学校でも、会社でも、相手をいかに上手にほめ、上手に注意するか、ということが、これほど大切になっている時代はないのではないか、と思います。



参考：子育てハッピーアドバイス

「大好き！が伝わるほめ方*叱り方」

スクールカウンセラー・医者／明橋大二著